

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

Vol.77 2014 12/1

●iPadサイズ(とほぼ同じ)

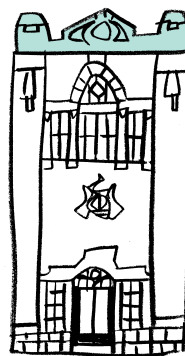
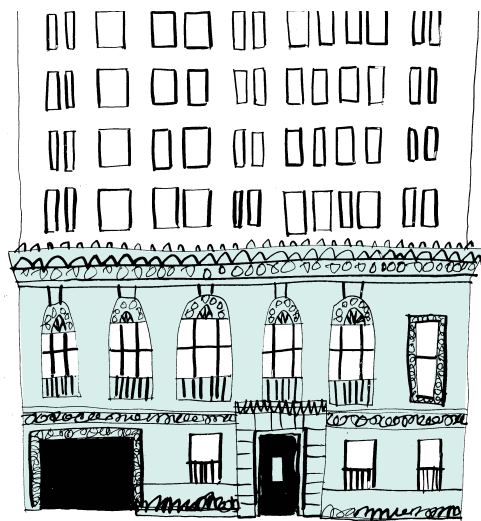


ナカノシマ大学

「大阪の神さん仏さん
を歩く〈神さん編②〉」
別所俊顕 高島幸次

申し込み受付中!

生きた建築へ行きたい。





話した2日間。

生きた建築ミュージアム フェスティバル 大阪2014

歴史的価値を継承しながら今も現役で使われている建築物を、「生きた建築」として発信していく大阪市の「生きた建築」ミュージアム事業。11月1・2日には、セクションに選ばれた建物を中心に、見学ツアーや特別公開、トークなど50を超えるプログラムが行われる「生きた建築ミュージアムフェスティバル」が開催された。今回はそのレポートを中心に、大阪の建築について考えてみたい。まずは当日の様子を写真で紹介!

取材・文／江口由夏 大迫 力(本誌) 写真協力／大阪市都市整備局





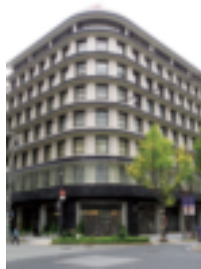
21	17	13	9	5	1
22	18	14	10	6	2
23	19	15	11	7	3
24	20	16	12	8	4

1・2芝川ビルには各所のQRコードから解説サイトに飛ぶ仕掛けが。3伏見ビルも休日特別開館。4大阪証券取引所ビルはイベント全体の受付に。5・6大阪ガスビル(P4)は屋上も公開。御堂筋を見下ろす。7・8「奇跡の町家」こと北野家住宅(P5)では相愛大学の学生の演奏会が。9・10生駒ビルの特別見学会は大人気。長蛇の列が。11ここどこ？ 梅田スカイビルの敷地の中です。12ダイビル本館では「生きた建築」公式写真を撮影した西岡潔さんの写真展。13現在はレストランの今橋ビル。14パティスリー「五感」の入る新井ビル。15ツタで覆われた外観が目印の青山ビル。16東心斎橋の浪花組の事務所内(!)で行われた磯達雄×高岡伸一×倉方俊輔のトーク。17・18大阪倶楽部では昼食会付きの見学会が。19ルポンドシエルビルにある大林組歴史館。20「僕もよく利用します」とカプセルイン大阪で微笑む倉方俊輔さん(P8)。21グランサンクタス淀屋橋1階のカフェ「コホロ」では、イラストレーター小澤真弓さんの「週末画廊」がオープン。22北浜レトロはオーナーの小山さんが直々に解説。23大阪駅前第1ビルのレトロ喫茶「マヅラ」。店主・劉盛森さん秘蔵の写真がずらり。24普段は入れない日本生命保険相互会社本館も特別公開。

大阪ガスビル

建設年:1933年
設計:安井武雄建築事務所

現在も営業が続く最上階の食堂以外にも、かつては喫茶室や公演場などが入り、文化の発信地であり御堂筋のシンボルだった大阪ガスビル。イタリア産と琉球産のトラバーチン（大理石）がびっしりと敷かれた豪華なエレベーターホールなど、今も竣工当時の面影を確かに残している。普段は一般の人が入ることのできない北館の屋上の庭園は昭和41年（1966）に造られ、大阪のビルにおける屋上緑化のさがけだった。刈り込まれた樹木や芝生など、60年代に流行っていた洋風の庭園スタイルを現在も維持・管理する。各年代の雰囲気そのままでビルの中に保存されるまさに「生きた建築」だ。



御堂筋のシンボルは
屋上もすごかった



特別な「特別公開」。

普段は見られない建築の内部に入ることができる特別公開は、
実にバリエーション豊か。これも大阪ならではのラインアップと言える。

取材・文／李 宗和

堂々たる姿を見せる
竹中工務店の本店ビル



御堂ビル／ 竹中工務店大阪本店

建設年:1965年
設計:竹中工務店(岩本博行)

竣工時から変わらない茶褐色タイル貼りの外観で、大阪の名建築としても名高い竹中工務店大阪本店ビル。館内は1階フロアのタイルをはじめ、竣工時のままのところも多いが、建築業界のトップランナーならではの改装・改修がされていることも見逃せない。また、7階の受付ホールは、ここが会社であることを忘れさせるスタイリッシュなデザインが光る（左写真）。さらに、屋上庭園や機械室の幾何学模様のように積まれた耐震壁（右上写真）も公開。1階に用意されたパネル展示や模型と共に、建物を後世に活かすための技を肌で感じられた。



キリスト 日本基督教団大阪教会

建設年:1922年

設計:ヴォーリス建築事務所 (W.M.ヴォーリス)

クリスチャンであったアメリカ生まれの名建築家、W.M.ヴォーリスの手による教会が江戸堀に。阪神大震災によって半壊したが、見事に復興して変わらない姿を今も残している。普段は礼拝でしか入ることができない内部が惜しみなく公開された中、圧巻だったのが2階の礼拝堂。祭壇へと続く緩やかな傾斜、アーチが連続する側廊など、温かみのあるアール構造を多様したヴォーリス建築の真骨頂が随所に見られた。重

厚感のある吹き抜けの巨大木造トラスと相まって、神の御加護を祈るにふさわしい壮麗な空気感、ロマネスク様式のクラシックなレンガ造りの外観にふさわしい迫力があつた。



オフィス街にたたずむ ヴォーリス建築の教会



大空襲を生き延びた 奇跡の木造3階建て



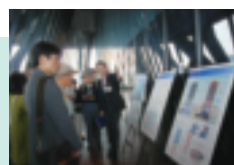
北野家住宅

建設年:1928年 設計:不詳

昭和20年(1945)3月に起きた大阪大空襲。数多の焼夷弾を浴びながらも奇跡的に焼失せずに残った商家が本町にあった。土間があつた1階は床が張られているが、住居スペースだった2階と、3階の使用人部屋は建てた頃のまま残る。昔は高価なエクステリアだった窓ガラスも当時のものだというから驚き。近代における木造建築のレベルの高さを示す建物として、国の有形文化財にも登録されている。靴を脱いでお邪魔すれば、なんとなく往時の暮らしぶりが偲ばれる。ノスタルジックな気分をオフィス街の真ん中で味わえる貴重な体験は、イベントの中でも大人気だった。

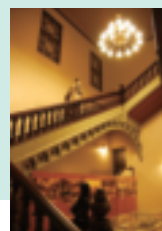


増えそうだと感じた。最後はダイビル本館へ。再利用された旧館のレンガや彫刻を、過去の写真と見比べ、実際に触って確かめる参加者たち。最新技術を活かしながら、伝統である都市美を守ろうとする中之島の今を体験できた。



続いて最新の免震構造を施した中之島フェスティバルタワーの解説では、ギャラリーから納得のため息が。工事のフェスティバルサイトと合わせて「一つの街のようにしたい」と展望も語られ、中之島に来る機会もますます

「ザ・中之島」と銘打たれた建築巡りに、月刊島民プレスも参加。日本銀行大阪支店では、なんと旧館御堂筋側バルコニーが初公開。さらに意匠や日銀の業務について行員の皆さんがガイドを務め、イケフェスならではの特別感が伝わるスタートに。



「中之島建築探訪」に行ってきました。

「建築ツアー」が語るもの。

プログラムの中でも特に人気だったのが、専門家が案内する建築見学ツアー。
そこで語られたのは単なるウンチクではなく、大阪の街の豊かな物語だった。

取材・文／江口由夏 大迫 力(本誌)

輸出繊維会館×笠原一人(京都工芸繊維大学大学院助教)

村野藤吾の「やわらかな建築」が間近にある幸せ。



村野建築の真骨頂は階段に宿る。見よ、この繊細な造形と優美なカーブを。「揺らめくように降りていく」と笠原さん。

大学卒業後の大正7年(1918)、旧ダイビルなどで有名な渡邊節の事務所に就職した村野は、そこで渡邊から古典的な様式建築の設計技法を叩き込まれる。モダニズムへの移行期的な時代にあつて、笠原さんは村野のこうした境遇を「時代に逆行するような」スタートだと評した。しかし、独立後の村野は渡邊譲りの様式建築の華やかさを巧みに加えることで、モダニズムでありながら見る人を魅了する独自のスタイルを生み出していく。この輸出繊維会館も、まさにその村野スタイルを体現する建築である。トラバーチン(大理石の一種)の外



輸出繊維会館
建設年:1960年
設計:村野・森建築事務所(村野藤吾)

もはや工芸品の域に達している村野デザインの家具の数々。金属に藤を組み合わせるというアイデアに脱帽。

建

建築家の笠原一人かずとさんが向かったのは輸出繊維会館。大阪を舞台に数々の名作を遺した建築家・村野藤吾の設計だ。建物を前にして笠原さんはまず村野建築の特徴について解説した。

壁とフラットに窓が連続して並ぶ外観は、一見いかにも軽快でモダニズム的。ところが一歩中へ入れば、エントランスホールの壁面を埋め尽くす堂本印象作のガラスモザイクタイルに始まり、階段、手すり、家具や調度品の一つ一つに至るまで息を呑む装飾に溢れている。

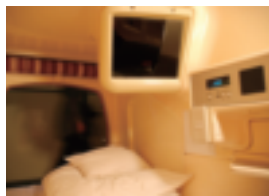
繊細で軽やかなデザインを多用する村野の作品は「やわらかな建築」とも評される。笠原さんはこれを、村野が「使う人、大衆を楽しませることを意識した」結果だと分析する。村野の才能が大阪で花開き、今もなお多くの人を魅了するのは、こうしたわかりやすく見て楽しいサービス精神が感じられるからなのだろう。



正面玄関のエントランスホール。壁面を覆う鮮やかなガラスモザイクのタイルに溜め息。入口を入っていきなり現れる、というのも村野らしい人を楽しませる計らいか。



カプセルイン大阪×倉方俊輔(大阪市立大学准教授) 大阪万博の余韻が「世界初」を生んだ。



内部は意外に広い。「工業的でありながら曲線を多用したスタイルは、黒川建築の特徴です」(倉方さん)。



全国の簡易宿泊所から寝台車まで調査した成果など、当時を知る発注者ならではの貴重なトークが炸裂した。

カプセルイン大阪
建設年:1979年
設計:黒川紀章建築都市設計事務所

女 子禁制のカプセルイン大阪で行われた、初めての女子会。見学前の対談には、ナビゲーターを務める倉方俊輔さんと共に、世界初のカプセルホテル実現に奔走したニユージャパン観光の元営業本部長・土肥英雄さんの姿も。

倉方さんが「0から1をつくったジャパン・オリジナル」と紹介したカプセルホテル。その着想は、ニユージャパン観光の社長が出張族の懐を憂い、ホテルサービスの質を落とさず安価に提供できる方法を模索したことに始まる。アイデアを形にすべく訪ねた先は、すでに昭和45年(1970)の大阪万博で、カプセル住宅を提唱していた黒川紀章。彼は、工場で生産した部材を現場で組み立てるプレハブ住宅に造詣が深かったのだ。依頼を受けた黒川は、量産型の個室に多彩な機能を詰め込んだ「スリープカプセル」を提案。製作したのは、大阪万博でサンヨー館の人間洗濯機を手がけたコトブキ。国家プロジェクト級の技術を結集したまさに近未来のホテル計画だった。

土肥さんのホテル誕生秘話を受け、建築史には発注者側の物語が不可欠だと話す倉方さん。生きた建築は、設計者の意図や作り手の仕事ぶりに留まらず、発注者のアイデアや願いまでも伝えてくれるのだ。



オープン以来初の女性入店イベントは大盛況。普段はありえない、華やかな香りが現場に満ちた。

中央電気倶楽部&中之島周辺の建築×酒井一光(大阪歴史博物館学芸員) 各年代の建築が混じり合って都市景観をつくる。



オフィスビルの先駆けである西天満の大江ビル。装飾が薄れ、モダニズム移行期の建築。



中央電気倶楽部見学後、ボーンストラックとしてダイビル本館まで案内してくれた酒井さん。参加者も大満足。



大阪府立中之島図書館を見学した後、水晶橋から大阪市中央公会堂を望み、その後、西天満方面へ向かった。



左右対称に羽を伸ばした日本銀行大阪支店は、明治時代の建築の典型であり、建築散策の起点にぴったり。



中央電気倶楽部
建設年:1930年
設計:葛野建築事務所(葛野壮一郎)

日 本銀行大阪支店を振り出しに西天満へ北新地へ堂島と歩いた充実の近代建築散策の締めくくりは、昭和5年(1930)建設の中央電気倶楽部となった。

細部までじっくり見学した後、酒井さんは設計者の葛野壮一郎の建築思想に触れた。葛野は積極的にモダニズムを取り入れたが、同時に古い建築を守ろうとする運動も展開していた。中央電気倶楽部が「当時最新だった『電気』に関する建築にもかかわらず、どこか古い時代を懐かしむ雰囲気がある」という指摘は、葛野の信条を思えば納得である。

このツアーがそうだったように、街はさまざまな時代の建築で構成されている。葛野の考えた通り、新しいものと古いものが混じり合っていてこそ、都市にとって自然であり幸福だと言えるのだろう。

■まずはイベントの感想を。

高岡 面白かったです。印象的だったのは御堂ビルの特別公開で、カメラを構えた50人以上の人たちが一流企業の応接フロアにいるという光景（笑）。オープン・ハウス・ロンドン（*）と同じ光景が大阪で再現されているのを見て、ちょっとジーンとききました。

倉方 ビルのオーナーや建物を使っている方が生き生きとしていましたね。いつも使っている場所に普段と違う人が入ることで、自分が建物に抱いている愛着や仕事の自負を楽しみながら再確認されたように感じました。

高岡 所有者の方々のホスピタリティは予想以上でした。わざわざ展示やパネルを用意してくれたり、掃除をしてくれたり。フェスティバル当日もたくさんの方が訪れたので、予定していた人数より多く受け入れてくれたところもありました。「お客さんが来るからには」と思ってたんだよね。そうね。

■セレクションの幅の広さや、市民投票ではなく専門家が議論によって決めるという手法も興味深かったです。

高岡 今回は、建築的な質は考慮しつつ、それよりも大阪の街の面白さはどんな建物で構成されているのかがわかるという視点で選んでいます。

倉方 統一の基準があったわけではありませんが、選ばれたのはやっぱり「いいもの」だと思います。「いいもの」

とは、デザインや現在の使われ方、あるいは建てられた時の背景やこれまでの経緯といった複数の物語が、いま目の前にある形の中に引き締まって表れているということです。

高岡 よく見るとカテゴリー的な偏りはある。でも、そこで絶対に入れないといけないとなると面白くなってしまう。

倉方 議論を行うということが大事なんです。議論でなければ数値でしか決めようがないから、単なる多数決や「古い方から」とかいうことになってしまう。でも、議論によって決まったものには説得力がある。その凝縮した説得力によって一般性を獲得できたんじゃないかな。

高岡 それができただけの結局、建物にまつわる物語が面白いからなんです。でも、建築を見る時にオーナーの思いとかを語ると、そういうウエットな感覚を嫌う人もいないと思うし、それをセットにして魅力として打ち出したのが今までの建築のイベントとは違うと思うんですね。

倉方 だから、その建築が選ばれた背景も含めて、実際に「面白いでしょ？」



「生きた建築」アフタートーク

by 高岡伸一×倉方俊輔

セレクションの選定からイベントの企画・運営まで、関わり続けてきた2人が「イケフェス」をふり返る！

ということを体感してもらおうというイベントでもありましたね。

■今回の反省点や来年以降の展望を教えて下さい。

高岡 今回は人数限定のプログラムが多かったので、涙を飲んだ人がたくさん出てしまいました。まだ試行錯誤の段階なので、今回出た問題点や改善点を来年につなげていきたいと思っています。

まず、建物を公開する側も初めてですから、何が起るかわからない。そうなるとうちとして人数も公開する場所も絞られるんです。我々の理想はやっぱりフルオープンなんです。いつ行っても中に入れるのが理想なので、少しずつでもその方向へ進めていきたいと思っています。そういう意味では、イケフェスは参加する人たちと一緒につくっていくイベントです。今回、幸運にも大きなトラブルはなく、参加した方々にも感謝したいです。何か起こると次からでなくなりますから。

倉方 大きな不満が渦巻くこともなく、Twitterなどでも好意的な感想が多かったですね。予想以上に幅広い受け止め方をされている様子が伝わってきたので、それも成功だったなと。

高岡 来年以降はボランティアの体制

を整えたいと思っています。多くの人の手が必要なので、ボランティアで働いてもらう代わりに、なかなか入れないところに優先的に入れるといったシステムです。プログラムの数やエリアもどんどん増やしていきたい。ただ、日程については僕は2日くらいがちょうど良いかなと思っています。

倉方 普通、イベントって全部見られるんですよ。でも、このイケフェスは、複数のステージが同時進行する野外フェスと一緒に、全部のプログラムには参加できない。来年もっとプログラムが多くなると、戸惑われる方も増えると思うんですが、公開する側の負担も考えて集約的にやった方がいいと思います。

高岡 その意味では、ガイドブックを広げて、どこを巡ろうかと自分なりに計画を立てること自体がもうイベントだと思っんです。

倉方 そうですね。それは大阪のこの質と規模だから成り立つ。徒歩圏内にこれだけ質の高い建築が集まる都市って、日本では大阪しかないかと。あと、人のホスピタリティと、語りの伝統ね。建築で日常を気づかせる、大阪らしいお祭り（フェス）として、定着しそうな手応えを受けました。

*オープン・ハウス・ロンドン
ロンドンで行われる800以上の建物が公開されるイベント。生きた建築ミュージアムフェスティバルのモデルの一つになった。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

一年の無病息災を
祈願しよう!

◎今月の授業

【初詣】

2015年1月講座

「大阪の神さん仏さんを 歩く〈神さん編②〉」 少彦名神社で初詣」

講師／別所俊顕(少彦名神社宮司)

高島幸次(大阪天満宮文化研究所)

初詣がてらに道修町の少彦名神社へ。
「くすりの町」の歴史をめぐるトークと、
ミュージアムツアーも開催!



新年第1弾のナカノシマ大学ということ、今回は中之島からほど近い道修町の少彦名神社に初詣。11月の神農祭で有名なオフィス街の小さな神社だが、正月休みが明けても参詣する人が絶えない。道修町に拠点を置く武田薬品や塩野義製薬など、誰でも名前を聞いたことがある製薬会社が参詣に訪れるからだ。というも、道修町は「くすりの町」として400年もの歴史があり、江戸幕府に認められた薬種業者たちが現在まで町や神社を支え続けてきたのだ。

薬の神さまを奉った境内で無病息災を

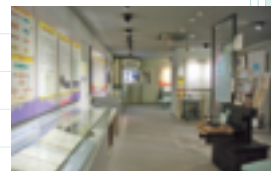
願った後は、読者にはおなじみの高島幸次先生に、大阪の神社の初詣や少彦名神社のご祭神について教わる。祭りの名前にもなっている神農と、一寸法師や竹取物語などの説話につながる少彦名命の二柱の神さまを奉っているのもこの神社の特徴なのだ。

別所宮司を交えたトークを聞いたら、館内の「くすりの道修町資料館」で、歴史を物語る貴重な文書や標本を見て回ろう。紙芝居やムービーなどを使った深澤恒夫館長の名物ガイドで、理解が深まること間違いなしだ。



道修町で生まれ育ち、平成元年から宮司を務める別所さん。今年からはベットの初詣という新しい試みを始めたというが、その心は?

社務所ビルの3階には、生薬の香りたどよう「くすりの道修町資料館」が。神農さんといえば、なぜ張り子の虎なのか? という謎も解ける。



募集要項	「大阪の神さん仏さんを歩く〈神さん編②〉」 日時／2015年1月10日(土) 1:30PM～3:00PM(開場1:00PM～) 会場／少彦名神社 境内 受講料／2,000円 定員／50人 主催／ナカノシマ大学 協力／少彦名神社	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学1月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。
------	---	--

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

笑う落語の大阪

第九回 高島幸次

大阪府立体育会館前の道路を西へ進むと、なにわ筋との交差点に出る。その付近の地名「稲荷」は、交差点の西北に鎮座する赤手拭稲荷神社にちなむものだ。

落語『ぞろぞろ』はこの稲荷神社が舞台。門前のさびれた荒物店の店主が同社に祈願すると、一足だけ残っていた草鞋わらじがすぐに売れた。その後も次々に客が訪れるたびに、どこからか草鞋がぞろぞろ降りてきて店は大繁昌する。その様子

を見た向かいの床屋も同社に祈願すると、床屋にも客が並んだが、髭を剃っても剃ってもぞろぞろ生えてきた、という小喃風の霊験譚だ。

語感につられて、妄想がぞろぞろ。

この喃を聞いた時に浮かぶ妄想がある。最初の客は、雨がポツポツき

たので草鞋を買うのだが、ではそれまでは何を履いていたのか。おそらくは裸足で農作業に出ていた近くの農民ではなかったか（妄想①）。

だとすると、草鞋はおかしくはないか。草鞋は足首に縛り付けて履く旅用の履物だ。普段履きにはサンダ

ル状の草履ぞうりが相応しい。農民が買ったのは草履ではなかったか（妄想②）。

しかも、古くは「ぞうり」ではなく「じょうり」と発音していた。「日葡辞書」（江戸初期の日本・ポルトガル辞書）は「ジャウリ」、「大阪」とば辞典は「ジョオリ」、「江戸語の辞典」は「じょうり」で立項する。

この喃も「じょうり」の発音がミソではなかったか（妄想③）。現在は、ワラジがぞろぞろ、髭が

ぞろぞろというだけの趣向でしかないが、当初は「じょうり」と、髭を剃る「ジョリジョリ」の擬音と、「ぞろぞろ」を響かせたように思えてならないのだ。

どなたか喃家さん、「じょうり」で口演いただけませんか。

十二月天神寄席では、万葉学者の上野先生に、似た響きを持つ「韻」について教わろう。

たかしまこうじ

大阪大学招聘教授、追手門学院客員教授、大阪天満宮文化研究所研究員などを務める。

言葉遊びが小気味良い、12月の天神寄席。

天満天神繁昌亭では、土地を提供している大阪天満宮に敬意を表し、毎月25日の夜席を「天神寄席」と銘打ち、さまざまな企画を開催している。12月は、百人一首や短歌にまつわるネタを特集。優美な和歌の世界と、テンポが命の上方落語の世界。両分野を熟知した万葉学者の上野誠先生が、意外な接点を解き明かしてくれる。

●12月のお題は「和歌」

12月25日（木）

「落語の五七五七七」

演目／桂佐ん吉「雑俳」

桂阿か枝「千早振る」

林家小染「掛け取り」

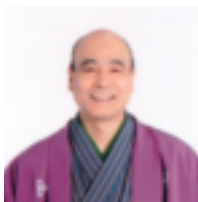
旭堂南北「鼓ヶ滝」（講談）

桂雀三郎「崇徳院」

鼎談／上野誠（奈良大学教授）

高島幸次（大阪大学招聘教授）

桂雀三郎



有名な歌にまつわる町人たちの恋のドタバタは、桂雀三郎師匠の「崇徳院」で。

現代人にもわかりやすく和歌の風流を伝える上野先生は、大の落語好き。



ナカノシマ大学で前売り券を買うとお得！

「天神寄席」の前売チケットをナカノシマ大学で買うと、1800円で入場できます。いつものナカノシマ大学と同じく、ウェブ、ハガキ、FAXでお申し込みを受付中。

開催日／12月25日（木）

時間／6:30PM（開場6:00PM）／受付開始5:45PM（）

受講料／1800円（通常）前売2000円／当日2500円（）

支払い方法／当日、現地に精算

販売期間／12月24日（水）7:00PMまで

※ナカノシマ大学で販売するチケットは前売り券のみです。当日券の販売はありません。

●申し込み方法はP9を参照してください。

●問い合わせ ☎06・4799・1340

うまさぎっしり新潟



関西人のための

「新潟のええところ・うまいもんぜんゼミナール」 北陸新幹線が来春3月14日、いよいよ開業！

第4回「さかな場放浪記新潟編」 講師／鷺尾圭司

瀬戸内も嫉妬する新潟の海。
冬は脂がのった白身魚の宝庫に。

「漁場をめぐる」と地域の顔が見えてくる。今回の講師・鷺尾圭司さんは言います。「新潟は雪国に特徴づけられた艶やかな白身に代表されます。回遊性のマグロやブリが佐渡沖を賑わせますが、信濃川や阿賀野川の養分に引き寄せられるように育つヒラメやカレイ、アカムツ（ノドグロ）など定着性の底ものに惹かれます。雪に閉ざされる地方の辛抱強さや心根のやさしさを伝えてくれるようですね」

鷺尾さんは日本の水産業の現状や漁村経営についてよく知る第一人者。小魚を食べることの大切さから「イカナゴのくぎ煮」を普及させたように魚食の楽しみ方を多くの人々に伝えてきました。地域のまちづくりや離島の暮らしを食文化の観点から育んでいく取り組みについても造詣が深い先生です。

当日は、新潟の漁場環境の特性、地球の温暖化の影響、魚の脂ののりと魅力などをたっぷり。また水産加工品やお酒とのからみ、健康な食生活なども織り込んだお話が聞けます。必聴！

信濃川を分流した大河津（おおこうづ）分水路によって川の養分が日本海に注ぎやすくなり、そこがまたとない漁場になった。河口近くの寺泊漁港で揚げられたノドグロは白身のトロと呼ばれ、脂がのってる感たっぷり



●今月の授業
海と魚

新幹線開業目前ファイナル
第5回 2月下旬（未定）
地酒と食材を味わう会（有料）



●第4回の会場は
梅田・富国生命ビル4階の多目的スペース「アサヒ ラボ・ガーデン」。イベントを開催していない時間帯は快適かつ使い勝手のいい、飲食持ち込み可のフリースペースとして人気です。連続テレビ小説にちなんだ講座「竹鶴とリタの物語」もお見逃しなく！
11:00AM～8:00PM 日曜休
<http://www.asahigroup-holdings.com/research/labgarden/>



わしお・けいじ
1952年京都府生まれ。林崎漁業協同組合（明石市）企画研究室室長、京都精華大学人文学部環境社会学科教授を経て独立行政法人水産大学校理事長就任、現在に至る。地物で味わう「旬産旬味」の大切さを提唱。無類のお酒好きでもある。著書に「ギョギョ図鑑」（朝日新聞社）、「環境汚染と魚資源の枯渇にどう対処するか」（共著・藤原書店）など。

「さかな場放浪記 新潟編」

日時／2015年1月14日（水）6:30PM～8:00PM（開場6:00PM）
会場／アサヒ ラボ・ガーデン（大阪富国生命ビル4F）
講師／鷺尾圭司
受講料／無料（新潟県のお土産付き） 定員／50名
主催／新潟県観光協会大阪観光センター
協力／アサヒ ラボ・ガーデン
運営／新潟のええところ・うまいもんゼミナール事務局

お名前・ご住所・電話番号を明記のうえ、下記までハガキ、ファックス、もしくはナカノシマ大学HP（<http://nakanoshima-univ.com/>）内の応募フォームからお申込みください。ハガキ、ファックスでのお申込みの方は、複数名でご参加希望の場合は人数分の必要事項を明記し、講座名を必ずお書き添えください。〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F「関西にいかぜ」受付係 tel.06-4799-1340 fax.06-4799-1341 ※締切＝12月17日（水）必着。応募者多数の場合は抽選とします。受講票は当選した方のみ、年内着で発送します。



かもめ船長の
水辺航海日誌

十月〇X日

大きな船、小さな舟。

中之島の水辺は豪華客船気分。

『につぼんの客船タイムトリップ』という本を近ごろ手に入れた。1920年代から30年代に世界の海を巡った、国内で建造された豪華客船の当時の雰囲気がよくわかる。図面や写真だけでなく、

ベッドメイクの美技や船を見学した小学生の作文なども紹介されていて興味深かった。

そういえば中之島の水辺の建築には「豪華客船を思わせる」という形容が定番だ。ダイビル本館（旧ダイビル）はその最たるもの。いつ見ても水上に向かって迫ってくるような凛とした姿。御舟かもめが進水した

2009年の夏、解体される直前のダイビルの前を初めて航行した時には、向こうが動いているんじゃないかと、大げさでなく感じたことをハッキリ覚えていた。設計は渡邊節で、その弟子の村野藤吾が製図主任を務めている。後に村野は「あるぜんちな丸」など数々の客船の内装を手がけている。そうだ。なるほど。



ダイビルは昨年

建て替えられ、外観や内装の一部が復元された。全長160mを超える豪華客船に対して御舟かもめは7mほどだけれど、建築とセットで味わえば、往時の船旅の空気が中之島の水辺に立ち現れるはずだ。



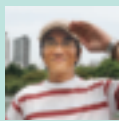
今も昔も、船上の時間は多彩。

当時の船上でのいろいろな催しも興味深い。運動会やデッキゴルフ、スキヤキパーティー、赤道通過を祝う祭では仮装行列なんかもあったらしい。近ごろは、御舟かもめに持ち込まれるお客さんの楽しみ方が多彩になってきていることもあり、船上の時間を楽しむ文化をこんな小舟でも受け継いでいるような気がして嬉しかった。

クルーズⅡ非日常なので、つい「楽しみ」のことばかり思ってしまうが、先日は「緊急船上会議」が開かれる、なんていう場面も出てきた。お仕事帰りに同僚5人と乗船されたお客さん。缶ビール片手にクルーズ、という予定だったようだけれど「めっちゃ気持ちいいから、会議やります！」と途中から真剣な話し合いがスタート。最後にはスッキリした顔で帰られた。そうか、エンターテインメントやレクリエーションだけではないのだ！と改めて気づかせてもらった。

大阪的水上コミュニケーション。

外洋をひとりゆく豪華客船では味わえない、都心の川の船ならではの楽しみというのもある。それは船の外のひとのコミュニケーションだ。岸の人、すれ違う船の人。ちよつと照れくさいが、手を振り合ったりするのは楽しい。近ごろは、お客さんと作業船のオッチャンたちが手を振り合う場面がすこく増えた。遠目にはいかめしい印象の「川の男」たちの気さくな反応はありがたい。大小の作業船、観光船からパドルボードやレガッタなどの人力の乗り物までが、同じ水上に共存している。大阪らしい水上コミュニケーションだと思う。



中野弘巳（御舟かもめ船長）

なかのひろみ 定員10名の小さな遊覧船「御舟かもめ」船長。この冬は初の企画「かもめクリスマスクルーズ（こたつチョコ付き）」と、「お正月クルーズ（こたつおしるい付き）」を開催する。
<http://www.otune-cannome.net>

トウニン月報

2014年12月1日発行

冬の夜を華やかに彩る 「大阪・光の饗宴2014」



大阪・光の饗宴2014
「OSAKA光のルネサンス2014」
期間／12月14日(日)～12月25日(木)
会場／中央会場(大阪市役所周辺～大阪市中央公会堂)、東会場(中之島公園・バラ園など) 点灯時間／5:00PM～10:00PM ※一部コンテンツは4:00PM～ ※プレビュー点灯～13日(土)、クロージング点灯12月26日(金)～2015年1月18日(日)5:00PM～11:00PM
<http://www.hikari-kyoen.com/coreprogram/renaissance>



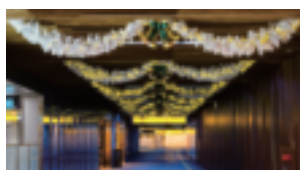
フランスのリュミエール祭参加アーティストによる、日本初登場の作品。
会場には、日本のご当地グルメや世界のファストフードも集まる。

12月の中之島に欠かせないのが、街を色とりどりの光で満たすイルミネーション。昨年より開催エリアが拡大した「大阪・光の饗宴」が今年も大阪市内各地で行われている。約3kmの光の帯が美しい「御堂筋イルミネーション」と、大阪市役所や中之島公園が舞台の「OSAKA光のルネサンス」の2つをコアプログラムに、梅田や大阪城、難波や南港といったエリアごとに練られた光のプログラムが華を添える。

すっかり冬の風物詩となったが、年々その魅せ方はパワーアップ。たとえば、大阪市中央公会堂をスクリーンにした3Dマッピング作品などが展開される「光のフェスティバルパーク(中央会場)」は必見。また島民としては「妖精」をテーマにしたイルミネーションが幻想的な「中之島ローズライトパーク(東会場)」に足を運びたい。水面や対岸からでも見やすいように計算された、中之島バラ園の構造だからこそ映える演出だ。

中之島の西エリアでは、ほたるまち港を中心に「中之島ウエスト・冬ものがたり2014」が開催中。中之島周辺の企業が協力して夜の水辺

を盛り上げようと、ダイビル本館やリーガロイヤルホテルが絶賛ライトアップ中。合わせて館内では演奏会の開催や、この時期だけのクーポンサービスなどもあり、まちあるき前には要チェック。おなじみのラバー・ダックも登場し、光り輝くビル群や橋を背景に、大迫力の噴水「中之島ウォーターファンタジア」が美しく映える。(江口由夏・本誌)



京阪電車中之島駅やフェスティバルタワーも、写真のようなイルミネーションでおめかし。冬の退勤時間が楽しくなる。

出張連載スタート! グランキューブ大阪の広報誌で



大阪・光の饗宴2014
「中之島ウエスト・冬ものがたり2014」
期間／～12月25日(木)まで(プログラムによってライトアップの時間などは異なる)
◎中之島ウォーターファンタジアは12月15日(月)から、期間中6:00PM～9:00PM
<http://nakanoshima-west.jp/>

記念すべき第1回目のお題は「映画」。グランキューブ大阪そのものが破壊されてしまう『ゴジラ ゴジラ×メガギラスG消滅作戦』や、中之島エリアがロケ地に選ばれた『黄金を抱いて翔べ』を取り上げ、中之島と映画の縁について掘り下げていく。恐れ多くも、先方の編集部からは編集後記にて「中之島を語らせたから右に出る者がいない」とのお墨付きが。次号は来年1月20日頃の発行を予定。館内で配布されるのでお楽しみに。

(江口由夏・本誌)

中之島のウエストサイドにあるグランキューブ大阪こと大阪国際会議場。医療学会や大規模な展示会などの会場として活躍するランドマークだ。この秋に発行されたこちらの季刊広報誌「グランキューブ便りVOL.9」から、なんと月刊島民プレスの出張連載が始まっている。その名も「中之島の聖地巡礼」。毎回一つのテーマに沿って、これまでに月刊島民で取り上げてきた情報を再構成し、中之島の歩き方指南を展開している。

「ピッツアの味の9割は生地が決まります」と、ピッツァエリョの唐崎健太郎さんは言い切る。ピッツアの生地の材料は至ってシンプルで、小麦粉に水と塩を混ぜて練り込み、酵母（イースト菌）を使って発酵させる。その日の温度や湿度によって水や酵母の量を調整する必要があるのだが、シンブルなぶん、その見極めが肝心だ。練った生地をこちらでは36〜48時間かけて寝かせる。いわゆる熟成のための時間だ。これによって生地が膨らみ、もちもちとしたやわらかい食感が生まれる。とは言

じっくり熟成させた生地が、ピッツアの味を決める。

[Mano-e-Mano] ●ピッツェリア

え、ただ時間をかければいいわけではなく、ここでも温度・湿度管理をしっかり行わなければならぬ。冷蔵庫の中の生地を30分〜1時間おきにチェックするという唐崎さん曰く、「子供みたいで可愛いです（笑）」。



その生地にチーズなどいろいろな具材をのせ、窯で焼き上げるわけだが、最近人気が高まっているのが「ピッツァ・フリットウ」、すなわ

「揚げピッツァ」だ。え、ただ時間をかければいいわけではなく、ここでも温度・湿度管理をしっかりと行わなければならぬ。冷蔵庫の中の生地を30分〜1時間おきにチェックするという唐崎さん曰く、「子供

みたいで可愛いです（笑）」。

その生地にチーズなどいろいろな具材をのせ、窯で焼き上げるわけだが、最近人気が高まっているのが「ピッツァ・フリットウ」、すなわ



ピッツァ・フリットウ（揚げピザ）は1,600円。中からとりとチーズが出てくる様子を想像するだけでも美味しい。最初は珍しさから注文する人が多いそうだが、一度食べるとはまるようだ。

ち「揚げピッツァ」だ。イタリアのナポリが発祥とされ、一説によれば焼いたピッツァよりも古くから食べられていたとも言われている。丸い生地の半分に、ペースト状に伸ばしたリコッタチーズをソー

マノ エ マーノ
ピッツェリア&バル Mano-e-Mano
●中之島フェスティバルタワー B1F
名物は焼きたての窯焼きピッツァ。冬のおすすめはカキと燻製チーズのピッツァ（1,800円・数量限定）。その他にもパスタや前菜など多彩なイタリアンメニューが揃う。サラダバーも付いているピッツァランチ、パスタランチは共に980円（平日のみ）。ディナーでは12月10〜25日までクリスマス限定メニューもあり。☎06-4708-3517 11:00AM〜11:00PM（10:30PM LO） 不定休

祝 祭 へ よ う こ そ。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>
提供/株式会社 朝日ビルディング



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店]旭屋書店 梅田地下街店／カベラ書店／紀伊國屋書店 梅田本店／紀伊國屋書店 グランフロント大阪店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天牛塚書店 大江橋店／ブックファースト 淀屋橋店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など]アイスポット／朝日カルチャーセンター 味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪シティキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス
- [店舗・医院など]アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／OOO(オー)／カセット／喫茶センター／喫茶SAWA／グラスノイト中之島／黒門さかえ／コモンカフェ／The Court／サトウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／シオトルベストコーヒー新聞電ビル店／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャナー／バスターレー／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイムハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／ラククッカーニヤ／LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店]大阪書店／紀伊國屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳々堂／ループル書店 [公共施設・大学関連施設など]大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館／川口基督教会 [店舗・医院など]あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御舟かもめ／Cabo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワナ／バルビコ／ホステル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂／Books 呼文堂／水嶋書房 千早モーター店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画広報・学芸連携事務局／大阪大学 21世紀記憶館／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／恵文社 一乗寺店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・シンパソン／百練／奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 神さんと人。

大阪天満宮、御霊神社、少彦名神社にかつて中之島にあった豊国神社。
人々の生活に密着した神社のあり方は、時代を映す鏡でもあった。

●『月刊島民』vol.78は2015年1月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

こころまちつくろう
KEIHAN
京阪電車

上から見ても、
いい街です。

京都タワー展望室5F
中之島から

スカイラウンジ 空 KUU

京都タワー

京都タワーだよ、おけいはん

眺望＆気分上々のタワーへは、東福寺駅のりかえ「京都駅」へ。

展望室（展望室5F）



地上約100mから
京の名所をぐるり
一望。
眺めも気分もま
さに極上。

スカイラウンジ 空 KUU（展望室5F）



落ち着いた雰
囲気のなか、古
都らしい風情を
感じる夜景にう
っとり。

たわわちゃんルーム（京都タワーホテル内）



人気キャラクター
「たわわちゃん」が
いっぱいの特
別室。

レストラン タワーテラス（3F）

京の食材などを
ふんだんに使っ
たシェフ自慢のお
料理を、ビュッフェ
スタイルで満喫。



大浴場～YUU～（B3F）

なんと早朝7時
オープン。
朝から極楽気分
の大浴場は宿泊
客以外もOK。



京都タワー50周年記念 おたべなさいだー（1F売店他）

八つ橋風味の
新感覚ご当地
サイダー。
話のネタにぜ
ひどうぞ。



オケイハンおけいはん
Facebook
@c.okeihan

お
け
い
は
ん
の
人、

詳しくは、京阪電車主要駅のチラシをご覧ください。

www.okeihan.net